

## 社会教育委員会議(第2回) 会議録

会議名	第2回 社会教育委員会議
開催日時	平成21年11月5日(木) 10時00分から12時15分まで
開催場所	教育委員会 大会議室
出席者	<p><b>【委員】</b>蒲田委員長、渡辺(陽)副委員長、遠藤委員、岡田委員、岡本委員、栗田委員、小池委員、小林委員、近藤委員、桜井委員、佐野委員、中澤委員、中尾委員、西崎委員、渡辺(泰)委員(15名)</p> <p><b>【担当職員】</b>山根生涯学習部長、井上生涯学習部次長(兼生涯学習センター長・図書館長)、斉藤生涯学習部参事(兼文化・スポーツ課長・白樺文学館長)、板東生涯学習部副参事(兼国体推進室長)、市原文化・スポーツ課主幹、西沢文化・スポーツ課主幹、渡辺文化・スポーツ課主幹(兼白樺文学館副館長)、石田鳥の博物館館長、深山生涯学習課長、鷺見生涯学習課主幹</p> <p><b>【事務局】</b>生涯学習課 斉藤、山崎</p>
公開・非公開	公開
傍聴人及び 発言者	傍聴人なし

## 【会議次第】

### 1 開会

- ・蒲田委員長あいさつ
- ・山根生涯学習部長あいさつ

### 2 議事

#### 1) 平成21年度社会教育事業の実施状況(4月～10月16日)

- 文化振興(白樺文学館関係含む)
- 生涯学習課(企画調整、公民館、学び推進担当)
- スポーツ振興(国体推進室含む)
- 国体推進室
- 図書館
- 鳥の博物館

#### 2) ・古文書等、生活文化財の保管・活用設備の整備について

- ・文化芸術振興基本方針策定について
- ・鳥の博物館運営検討会議について

#### 3) 平成22年度の部会について

### 3 その他

- ・新型インフルエンザの対応について
- ・社会教育施設の受益者負担の導入について
- ・今後のスケジュールについて

## 1 挨拶

**蒲田委員長:**おはようございます。この社会教育委員会議は2年目にはいりました。この会議は、時代に即したより良い社会教育をめざすものです。皆さまが会議や研修を通して、またいろいろ考えていることなどをこの場で活発に出し合って、この会議で生かしていただきたいと思います。

いま、この時代にどのようにすれば社会教育の活性化が図れるのか、社会教育施設をハード面、ソフト面含めていま予算のない中でなができるのかを考えながら、より良い我孫子にしていければと思います。本日は、皆さまからの忌憚のないご意見をよろしく願います。

**山根生涯部長:**皆さまお忙しいところ、第2回社会教育委員会議にご出席いただきましてありがとうございます。

現在、市では22年度予算策定の真最中でございます。毎年の事ながら、たいへん厳しい状況にありまして、経常経費10億円の削減目標が財政当局から指示されております。

昨年、生涯学習部では事業仕分けがなされ、かなり厳しい結果が示されました。そういった状況の中で、なんとか工夫して事業を進めてまいりたいと思います。

また、次第にもあります3つの研究部会につきましては、本当に肌理の細かい会議で、皆さまから貴重なご意見をいただいております。

たいへん厳しい予算の中ではありますが、皆さまからお知恵をいただき、市民に喜ばれる社会教育・生涯学習行政を進めてまいりたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

### 3 議事

#### 1)平成21年度社会教育事業の実施状況について

文化振興(白樺文学館関係含む)

西沢主幹)資料1にそって説明。

文化団体活動の支援として、4月5日~9月21日の事業まで計31件実施しました。参加者は延べ13,121人となっています。

子どもの地域学習の推進として、めるへん文庫は今年114編(小学生74編、中学生24編、高校生16編)の応募作品がありました。現在、この応募作品について年内を目途に審査し、各賞の決定をしていきたいと思っております。

少年少女合唱団は、現在36名、毎週土曜日に練習しています。インフルエンザの影響でこのところ集まりが良くないですが、各種イベントへの参加、老人ホームへの慰問等、頑張っております。

子どものための舞台鑑賞事業については、毎年1月か2月ぐらいに行っております。こちらもインフルエンザ関係で、現在、子ども向け事業が中止・延期されておりますので、今後検討が必要になってくると考えております。

アロハフェスタは、6月7日、利根川ゆうゆう公園で実施、5,800人の来場者がありました。この事業の特徴として、親子3世代で来られた方々が多く見受けられたことです。これは、他のイベントではなかなか見られないものです。

埋蔵文化財の発掘調査につきましては、9月までに確認調査4件、本調査1件実施しております。

出前講座の講師派遣につきましては、計10件実施し、参加者は計304名となっています。

旧村川別荘では、PRも兼ねて、夏休みの最後に親子で竹灯籠作りを行い、できあがった灯籠を使って、9月13、14日に竹灯籠の夕べを実施いたしました。

渡辺主幹)白樺文学館は、この4月から市の運営がスタートしました。企画展として、ゴールデンウィーク前から雑誌「白樺」創刊百周年記念展を開催しております。11月10日以降、常設展示を実施する予定でいます。

入館者数は、昨年と比較して約 1.5 倍となっています。これからもリピーターや新規来館者を対象として、なるべくわかりやすい形で紹介していきたいと思います。

今後も他部署と連携した事業を展開していきたいと思います。直近では、バードフェスタでスタンプラリーのポイント箇所として参加します。

委員) めるへん文庫の応募作品が 114 編ということですが、昨年と比較してどうですか。

西沢主幹) 昨年は 157 編です。一昨年は、約半分ですので、昨年から急激に増えています。めるへん文庫がここにきてやっと定着してきたのではないかと考えます。

委員) 埋蔵文化財の発掘について、目新しい発見などはありましたでしょうか

西沢主幹) 別当地遺跡確認調査では、湖北高校北側で、東西につながる土地を区画する溝が確認されております。

委員) JBF のときに白樺文学館で実施するスタンプラリーでは、白樺文学館をアピールするような PR 事業等、なにか行う予定はありますか

渡辺主幹) 一割くらいの方には、入館していただけると期待しています。チラシを配布するなどして、現在開催している企画展は今しか見られませんが、ぜひ見ていただきたいと思っています。

委員) 子どものための舞台鑑賞事業がインフルエンザの影響で中止となる可能性があるということですが、この時期に実施される理由とまた影響の少ない他の月に変更することができないかお聞かせください。

西沢主幹) この事業は子ども関連団体を中心とした実行委員会組織で運営しています。演目についてもこの組織で検討していただいています。演目が決まるまでの時間的な関係もあり、どうしても年度の最後のほうになってしまいます。今のご意見については、実行委員会にもお伝えして、調整できるか諮っていただくようにします。

生涯学習課(企画調整、公民館、学び推進担当)

深山生涯学習課長) 資料 1 に沿って説明。

主な事業として、人権教育については、総合学習の支援として、白山中学校の要請により、中学 3 年生を対象とした人権教育を 4 回シリーズで実施しております。

社会教育施設の整備として、文化施設整備基金条例が 9 月議会で制定されました。これは、

旧市民会館の売却益 3 億 2 千万円を文化施設整備基金として積み立てるものです。

また、地元の川村学園を会場に、県の事業である人権教育研修会と家庭教育フォーラムが実施され、社会教育委員の方はじめ多くの方に参加いただきました。ありがとうございました。

公民館事業については、今年前半で特徴的なところとしては、夏休みに実施した夏の子ども工作があります。広報一面に子ども事業が掲載されたということで、その効果もあり、たいへん多くの応募者がありました。ただ募集人数に対し応募者数が多かったため、会場の定員の関係で、参加できない子どもたちも多くいました。そのような場合の対応が今後の課題となっています。

学び推進担当の事業ですが、今年度、第二次生涯学習推進計画を策定し、現在、この計画に基づき推進しています。

出前講座については、毎年 250 ～ 280 件の申込があり、年 6,000 人 ～ 7,500 人の方が受講されています。

生涯学習あびこ楽校フェスティバルについては、資料 1 - 2 に記述しております。これまで 5 年間、生涯学習のシンボリックな事業として実施してきました。毎年、テーマを「一生涯楽習」の一文字ずつをとって実施してきましたが、今年がその最後の年となります。企画展を含め、35 事業をアビスタ、川村学園、中央学院大学、水の館などを会場に実施いたしました。参加者は 1,817 人となっています。今年の特徴として、9 月 13 日に川村学園で 11 講座を実施しました「キャンパスで習う」については、早めのお知らせや広報等の効果により、昨年より参加者が大幅に増え、約 200 人の参加者がありました。

委員)生涯学習フェスティバルは今後どのような形になるのか

深山課長)現在のあびこ楽校協議会員の任期が終了し、新たな委員が委嘱されます。この協議会の中でフェスティバルの今後のあり方についても検討していただきます。なお、フェスティバル実行委員会の会議のなかでは、これまで行ってきたイベントという形にとらわれず、連続講座のような形での実施も、といったご意見も出ておりました。

委員)長寿大学の卒業生が地域の活動にどう生かしているかなどの調査を実施していますか。また、長寿大学のプログラムの中でこういった意識づけをされていますか。

深山課長)長寿大学生を対象としたアンケートの中で、約 8 割の方がなんらかの形で地域活動に貢献しているという高い数字の回答があります。

また、プログラムの中で、地域の活動にどう生かしていくかという点では、実際に長い間、我孫子市でボランティア活動している方たちを学んでいただくような講座を取り入れております。

委員)長寿大学 1、2 年生は知識的なこと、3、4 年生はより専門的なところを学び、地域活動に

生かしていくようなプログラムになっているでしょうか。それと、子育て支援関連事業として、子育て支援センターのように、子育て中のお母さん方がフリーな時間で集まれるような場所・機会を提供するサービスも実施しているとききます。それと比べて、毎週指定された時間に行っているのびのび親子学級の応募者などに変化は現れていませんか。また、子ども部の事業へ移行するようなことはありますか。

深山課長)長寿大学3、4年生につきましては、ご指摘の部分を意識したプログラムづくりを行うようにしております。

のびのび親子学級の応募者は、我孫子地区公民館で行っている2歳児コースは30組の定員に対し、火曜日コースは34組、金曜日コースは46組の応募がありました。

湖北地区公民館2歳児コースは16組の定員に対し14組の応募がありました。ただ、我孫子地区公民館のコースに落選した方2組が加わって、16組で進めております。応募状況については、家庭学級などでも同じような状況になっていますが、比較的我孫子地区は応募者が多く、湖北地区は少ないです。

また、公民館事業は、乳幼児から高齢の方までの方が対象となっています。のびのび親子学級など子ども向けの事業を子ども部に移管したりすることは考えていません。これからも公民館事業として、社会教育事業として位置づけ、続けていきたいと思っております。ただ、昨年実施された事業仕分けでは、学校週五日制事業など子ども部でも同じような事業が実施されており、今後整理していくという指摘を受けております。

委員)長寿大学は、年間のスケジュールが決められており、いろいろな内容の講座が実施されていますが、途中から講座を受けるようなこともできたら良いと思っております。

深山課長)家庭教育学級では、公開講座はあります。長寿大学では、現在のところ考えておりません。

スポーツ振興(国体推進室含む)

市原主幹)資料に沿って説明。

小学校プールの開放事業については、7月21日～8月21日まで1ヶ月間実施しました。合計で20,765人の方に利用いただきました。

手賀沼エコマラソンについては、9,488人の方のエントリーがあり、当日7,973人の方が参加いたしました。エントリー数に対し、参加者が減っているのは、前日から当日にかけて雨が降り、気温も下がった状況のなか、健康に気をつけて辞退した方が多かったと推測します。

スポーツ団体・クラブとスポーツ選手への支援として、国体全国大会出場選手に各1万円助成金を交付しました。

板東国体推進室長)資料に沿って説明。

平成22年度に開催される千葉国体に向け、準備を進めています。

我孫子市では、平成21年5月23、24日に「第50回都道府県対抗なぎなた大会」を国体リハーサル大会として位置づけ、実施いたしました。

国体広報啓発活動としては、かっぱ祭りなどイベント等にも参加し、マスコットキャラクター「チーバくん」啓発物品の配布等を行いました。

井上図書館長)資料に沿って説明。

資料の貸出については、天王台、新木地区に図書館がないことから、近隣センターにてリクエストサービスを行っています。

子どもの読書環境向上への取り組みの中で、学校との連携については、市内小中学校図書室の整備を実施してまいりました。今年度湖北中学校・我孫子中学校で、全学校一通りの図書室整備の協力が終了します。ただこれで終わりということではなく、これからもこの事業は続けていきたいと思えます。

講演会では、9月19日にノンフィクションライター沢木耕太郎氏の講演会を実施しました。市民に限って募集したのですが、応募者は614人もあり、公開抽選会で参加者を決めさせていただきました。来られなかった方には、当日録音したCDを貸出しております。

全体的なところでは、昨年実施した事業仕分けがあります。年々財政状況が厳しくなっています。図書館も資料費を削減するだけというわけにもいかず、これまで夜間・祝日開館等サービスを拡大してまいりましたが、ここにきてそれも厳しくなっており、サービス拡大について精査しなくてはならないということ、現在検討しています。

石田鳥の博物館館長)

資料に沿って説明。

フロアスタッフイベントについて、夏休み期間中、土日の午前と午後、計17回、夏休みフロアスタッフとあそぼうを実施しました。全部で985人の参加がありました。

講座・セミナーについて、第2回鳥博セミナー「チョウの羽化を見よう」では、106人と大勢の参加があり、NHKのニュース等でも取り上げられております。

委員)年々、手賀沼の蓮、カワウが増えています、将来的にどうするのか

石田鳥の博物館館長)

蓮については、沼南側から年々北に増えております。蓮の葉が太陽光線を遮ってしまって、水生植物等にも影響があるため、どうかしなければと思っております。これについては、市、県、市民団体等で検討したことがございます。手賀沼は一級河川になっており、国の管轄となっていて、具体的に市でどうするということがいえませんが、県も実情を認識し、検討していると

思います。

カワウについては、10年前は手賀沼では1羽もない貴重な鳥でした。繁殖の問題は、関東だけでなく、全国的な問題となっており、いろいろな研究機関でもどうしたら繁殖を押しえられるか等の研究・調査しているところです。今後もインターネット等から情報収集し、バランスのとれた繁殖力、漁師さんとも共存できるような環境ができるだけ早くできることを願っております。

委員)手賀沼の水鳥が減っていると聞くと、最近の状況はどうですか？

石田鳥の博物館館長)そのとおりです。手賀沼の周りの状況を見ますと、柏側などの道路が整備され、ジョギング、サイクリングなどでにぎわい、人のいない時がないぐらいです。また、堤防など高いところから水面がよく見えるところもあります。ということは、鳥からも人が良く見えるということです。鳥にとって、安心できる環境になく、とても住みやすいとはいえないのだと思います。

オオバンは国内でわたりをしている鳥で、夏には、涼しい東北方面に行くといわれています。冬に南下し、昨年は200羽とたいへん多く観測されています。なんらかの条件があると思いますが、またたくさん戻ってきて欲しいと思います。

委員)これまで、鳥の博物館研究部会ではいろいろと検討していただいています。この半年間、入場者数でなにか変化は現れましたか。

石田鳥の博物館館長)入場者数については、議会等でも追求されており非常に苦心しておりますが、今年度四半期の入場者は約2万人と、昨年とほぼ横ばいの状況であります。

2)

古文書等、生活文化財の保管・活用設備の整備について

委員)資料2に沿って説明。

古文書類の保管・貸出等の取扱いについて、近隣15市の状況のアンケート調査を行いました。そのアンケートで、我孫子市では市史を編纂するときに、原本を借用しコピーしていたのに対し、他市では寄贈された原本そのものを保管しているということがわかりました。

古文書を解読講座テキストなどに活用する場合の手続きが複雑でしたが、これまでより簡素化が図られることとなりました。

アンケート集計結果より、今後、我孫子市でも新資料に関しては原本保存を目指し一般公開を基本方針として受け入れることを前提条件として進めていくことが必要と考えます。また、現在保存している複写物についても、原本保存を増やし史料の閲覧・複写を改善していく方法が妥当と考えられます。



#### 文化芸術振興基本方針策定について

委員)資料3に沿って説明。

我孫子市文化芸術基本方針の作成にあたり、事務局より、近年作成した7自治体の市町村の基本方針が配られ、8月7日の第1回会議で、その資料を参考に会議が開かれました。その後、9月24日、基本方針の素案が市から提示され、それに対する各委員の意見書を提出しました。その意見書等反映した素案の修正版が10月30日、各委員まで届いております。

本日の社会教育委員会議終了後、素案について協議する予定となっております。

#### 鳥の博物館運営検討会議について

委員)資料4に沿って説明。

これまで計5回の会議を開催し、各委員からさまざまな意見が出されました。提案された問題の中でも時間の要するハード面については、以後検討することとし、まずそれをカバーするソフト面、ただちにとりかかれるものについて実施について検討してまいりました。

その中で、今年は夏休みに学童保育室に出向いて出前教室を実施しました。この事業は短い期間、職員の方もフル活動でたいへんだったと思いますが、皆さんに喜ばれとても大きな成果があったと思います。

ミュージアムショップについては、取扱商品やレイアウトなどについて、検討してきました。

また、博物館に何度でも足を運んでいただけるリピーターを増やす方策についても検討してきました。

それと、第5回に書いてあるように、いつも同じ変化のない博物館でなく、行けばなにかちがう楽しい演出があるような博物館が実現できないか検討してまいりました。

鳥の博物館は、全国で唯一の鳥専門の博物館ですし、我孫子市でたった一つしかない博物館でもあります。市民の方の生涯学習の場としての役割も備えなくてはならないし、鳥の博物館の将来像について、今後検討していきたいと思います。

#### 石田鳥の博物館館長)

委員の皆さまからは、毎回活発なご意見をいただき、ほんとうにありがとうございます。この報告書は、かなりかいつまんで書いてありますので、補足説明をします。

第1回は、具体的に実行できる事業について、10項目ほどの実行案ができました。その中からすぐに実行できる事業について、第2回会議にて4項目ほど出されました。

それと、第3回では、この部会のテーマである鳥の博物館の活性化の「活性化」の概念について再認識が必要であろうということで、意見が出されました。

第4回では、夏休みの事業報告とミュージアム商品について、季節感の創出について話し合いました。

第5回では、さらに具体的にミュージアムの商品はなにが良いかなどご意見をいただいております。実際、これらのことは即効性のある、すぐに改良できる部分であります。

今後、博物館がどのようにあればよいかさらに概念的なところを話し合い、鳥の博物館運営検討部会の成果品として、年度末～来年度あたりに、皆さまにご提示したいと思っております。

委員) 季節感の演出について、伝統的な行事と鳥を組み合わせで紹介するというすばらしい提案がありますが、鳥の博物館では具体的な実施目標などでしていますか。またどのように PR するかお考えですか。

石田鳥の博物館館長)

エントランスの壁面を利用して、パネル展示等で紹介していったらどうか、考えております。

伝統的な行事として、二十四節季にある、正月、豆まき、桃の節句、端午の節句、月見など日本の伝統行事をその季節の鳥の写真などと組み合わせ毎月ごとに紹介し、季節感を創出したいと思えます。

委員) 二十四節季の意味などもあわせて紹介していきたいと思えます。

### 3) 平成 22 年度の部会について

委員長) 社会教育委員として任期が3年で、来年1年間も研究部会としての期間があります。

平成22年度に取り組みたい部会については、各委員で検討いただき、12月10日までに事務局まで提出してください。

### 3 その他

#### ・新型インフルエンザの対応について

事務局) 我孫子市新型インフルエンザ対策本部会議において、「高校生以下を参集する屋内のイベント等の自粛を要請」することとなり、今後、生涯学習部で所管する社会教育事業等についても検討されております。年度当初予定していた事業が中止または延期となる場合がありますのでご承知置きください。

#### ・社会教育施設の受益者負担の導入について

事務局) 我孫子市では、利用者から負担していただくという考えで、受益者負担の導入について全庁的に検討しております。社会教育施設についても同様です。例えば、小中学校の体育館一般開放の有料化や公民館学習室の料金改定について検討しております。今後、パブリックコメントにて市民の皆さんからの意見を募集いたしますので、社会教育委員の方からのご意見もよろしく願います。

#### ・今後のスケジュールについて

事務局) 11月20日、東葛飾地区社会教育委員合同研修会が我孫子市で開催されます。  
ぜひ、皆さんの出席をお願いします。

また、来年1月11日に、本年と同じように、けやきプラザを会場に2部制の成人式を開催いたします。成人式には、社会教育委員の皆さんにもぜひご出席いただき、新成人の門出を祝っていただければと思います。

以上